建　築　部　門

■さとの湯（城崎町）

【大規模】

■建物は、城崎駅前に建設された温泉交流センターで、城崎らしさの中に現代性を加えた造りとなっており、ハーブの香りや滝の音などにより、安らぎと潤いに満ちた空間をつくりだしている。

■この地方の冬場天気の悪いことを考慮して、屋根をかけた交流イベント広場を玄関先に設けて、親しみやすい外構で人々のにぎわいを呼び込んでいる。

■波豆川浄化センター（三田市）

【小規模】

■屋根は千木を乗せかやぶき風にし、軒先は瓦ぶきとなっている。壁は、土壁のしっくい仕上げ風で、腰は下見板風である。

■農業集落排水事業の終末処理場として、嫌悪感をもたれやすい施設であるが、できるだけ地域になじんだ外観の仕上げを施し、かやぶき屋根が多数残る周囲の田園風景に溶けこんだ施設となっている

■灘浜ガーデンバーデン（神戸市灘区）

【大規模】

■建物は、温水プールのあるバーデ棟と、エントランスや浴室等のある楕円形の本棟を、公園内のウォーキングコースにより結びつけた温水利用型健康運動施設である。

■温浴施設の熱源は、発電所からの熱エネルギーを有効利用するとともに、万一の災害時には、防火・生活用水の貯水槽としての機能と、一時避難所に利用できるなど、地域の防災拠点としての役割も果たしている。

■住吉屋歴史資料館　御用地館（おようじかん）（竹野町）

【小規模】

■この建物は、江戸時代中期に建設された歴史性の高いものであったが、数十年前から空き家となっていたのを、まちづくり活動団体の働きかけなどにより、竹野町が所有者から譲り受け、歴史資料館として建物の再整備を行ったものである。

■施設は、建物自体を未来に伝える伝承交流館、土蔵を改造したミニサロン、竹野町出身の書道家の作品を展示する記念館の3つで構成され、地域住民がまちづくりの拠点施設として、管理運営を行っている。

■酒ミュージアム 酒蔵館（西宮市）

【大規模】

■阪神・淡路大震災で半壊した木造の酒蔵を修復し、酒蔵博物館として再生された施設である。

■明治2年築という往時の面影を残すため、建造時の部材を利用して復元再生するとともに、新たに長屋門などの外構が施され、この地区のシンボルとなっている。

■関邸（出石町）

【小規模】

■伝統工法による古い民家が少なくなってきた中で、古民家を改修し、古民家のよさをいかしながら、現代生活にマッチさせた古民家再生のモデル的存在である。

■具体的には、箱階段を新設し、小屋組みの吹き抜けを見せた玄関空間、屋根裏部屋を利用した隠れ家的なくつろぎ空間が印象的なものとなっている。

■播磨町立蓮池幼稚園・保育園・子育て支援センター（播磨町）

【大規模】

■同一敷地に幼稚園・保育園・子育て支援センターが立地し、終日開放されている共通の前庭「いどばたガーデン」と一体となって地域の子育ての拠点として機能している。

■分節された平屋の勾配屋根が、周囲の住宅と調和したまちなみを形成しており、そのスケール感もこの施設の利用主体である子どもたちとマッチしている。

■南淡リフレッシュ交流ハウス“ゆーぷる”（南淡町）

【小規模】

■弓形に大きく広がる交流ロビーを中心に、屋外の風景を十分にとりいれ、温泉情緒豊かなA浴室と、塔状のトップライトが上から豊かな光を落とすB浴室が配された温浴施設である。

■それぞれの形態に応じて木の架構をあらわにした内観は、力強さ、繊細さを兼ね備えている。屋根は淡路瓦を採用して周囲の山々の稜線に呼応させ、地域の風土に溶けこんだ建築となっている。

■イーグレひめじ（姫路市）

【大規模】

■お城本町地区第一種市街地再開発事業により建設された施設で、姫路城南側の史跡地内に位置するため、高さを低く抑えて、お城との景観上の調和に最大限配慮して計画されている。

■ガラスとコンクリートの建築物であるが、ガラスの壁面は城の石垣の曲面を採り入れたカーブを用い、また屋上緑化を行うなど、城を背景とした視点および城からの視点の双方において、城下町のイメージと調和している。